病院名	岩手県立胆沢病院
研修科目名	耳鼻咽喉科

◇　研修目的

　耳鼻咽喉科診療は、耳、鼻、副鼻腔、咽喉頭、気管、食道、唾液腺などの疾患、病態を取り扱い、その内容は多岐にわたる。また、顔面頚部の外傷、腫瘍などの頭頚部外科領域（眼科領域を除く頭蓋底から頚部まで）の疾患も含んでいる。

　患者診察ではまず基本的な視診、触診などの他、鼻咽腔、喉頭ファイバーなどによる検査を習得する。また、画像検査、聴覚検査（純音聴力検査、ABRなど）、平衡機能検査など各種検査方法を理解し、診断能力の向上に努める。

　また、生検や小手術等の手技、鼻出血の止血、電気凝固法等、技術的な習得についても学ぶ。

　以上のようなことを中心にして、耳鼻咽喉科疾患のプライマリ・ケア、救急疾患への対応を身につけることが、初期研修の主な目的である。

◇　ＧＩＯ（一般目標）

　耳鼻咽喉科診療を中心として、耳鼻咽喉科疾患の基本的知識や技術を学び、将来各自目指す診療科へ進んだ際の臨床に役立つようにする。

◇　ＳＢＯs（個別行動目標）

１．病歴を正確に聴取し、鑑別疾患を述べることができる。　（知識・想起）

２．耳鏡、鼻鏡、喉頭鏡等を使って、基本的な耳鼻咽喉科診察を行い、所見を述べることができる。　（技能）

３．診察を行い、必要な検査をオーダーして、診断および治療の計画を立てられる。　（知識・解釈・問題解決）

４．頭頚部を中心にしたX-P、CT、MRIなどの代表的な疾患についての読影ができる。　（知識・解釈）

５．耳鼻咽喉科における主な救急疾患についての初期治療、適切な対処が可能である（めまい、鼻出血、中耳炎、扁桃炎など）。　（知識・問題解決・技能）

６．耳鼻咽喉科における生検や小手術などを指導医のもとに行なうことができる。（技能）

◇　研修方略

LS	方 法	該当SBOs	対 象	場 所	媒 体	人的資源	時 間	学習時期
1	外来研修	1～5	指導医 研修医	外来	臨床研修 実 技	指導医	3時間	毎日午前
2	実技研修	6	指導医 研修医	外来	臨床研修 実 技	指導医	2時間	月曜午後
3	SGD	4	指導医 研修医	外来	画像フィルム	指導医	1時間	金曜午後

◇　研修評価

SBOs	目 的	対 象	測定者	時 期	方 法
1～4	形成的	態度・知識	指導医	研修終了時	レポート
5～6	形成的	知識	指導医	研修中	観察記録

◇　週間予定表

	月	火	水	木	金
朝	3F病棟 ミーティング	3F病棟 ミーティング	3F病棟 ミーティング	3F病棟 ミーティング	3F病棟 ミーティング
午前	外 来	外 来 手 術	外 来	外 来 手 術	外 来
午後	外 来 （子ども外来） 検査	手 術	病 棟 検 査 外来小手術	手 術	病 棟 検 査 症例カンファレンス

◇　研修内容と方法

外　　来　：　　毎朝夕にCT、MRIなどの画像読影、検討会を行なう。
新患患者さまの問診および診察を行い、臨床所見をカルテに記載する。それを指導医が確認し指導する。また、必要と思われる検査のオーダーを行い、さらに考えられる鑑別疾患について述べる。治療の計画を立てて、また、必要な処置を指導医のもとに行なう。

入　　院　：　　救急患者、予定手術患者の入院指示を行い、治療計画を立てる。また、ベッドサイドで患者さまと関わりながら、症状、身体所見、臨床検査データなどを把握し、指導医とともに適切な対処をする。

検査･手術　：　　外来での唾液腺の生検、腫瘍の生検、鼻骨骨折の整復、鼻出血の止血処置、外傷の創処置、縫合などを指導医のもとに行なう。
手術場での手術においても、主に助手として参加し、できる範囲で処置をする。

◇平成26年度指導責任者及び指導医

耳鼻咽喉科指導責任者：　中田　吉彦